

婦人科感染症に対する pazufloxacin の臨床効果

館野政也・舟本 寛

富山県立中央病院産婦人科*

新たに開発されたニューキノロン系抗菌薬 pazufloxacin (PZFX) について臨床的検討を行い、以下の結果を得た。

- 1) 子宮内膜炎1例, 外性器感染5例, 計6例にPZFXを投与し6例全例に効果を認めた。
- 2) 6例の症例から7株が検出され, 細菌学的には本剤の投与により全ての菌が消失したが, 1例に菌交代が認められた。
- 3) 副作用, 臨床検査値異常は認められなかった。

Key words : PZFX, 婦人科感染症

婦人科領域における軽症の感染症に対する治療の多くは外来で行うことが多く, 静注や点滴静注による治療法は適当ではない。できれば経口投与の方が利便性が高い。今回我々は, 新たに開発された経口用ニューキノロン薬 pazufloxacin (PZFX) (富山化学工業株式会社・株式会社ミドリ十字) を婦人科領域感染症に対して使用する機会を得たのでその使用成績について報告する。

PZFXは, 好気性および嫌気性のグラム陽性菌ならびに *Pseudomonas aeruginosa* を含むグラム陰性菌に対して幅広い抗菌スペクトルと強い抗菌力を示すという^{1,2)}。また臨床分離株に対しても *Staphylococcus* 属をはじめとしたグラム陽性菌や *P. aeruginosa* を含むグラム陰性菌に対し強い抗菌活性を示すといわれている^{1,2)}。したがって婦人科感染症に対する効果が期待される。

今回我々は, 本研究に先立ち治験参加の同意の得られた6名の患者を対象とした。その内訳は, 子宮内膜炎1例, バルトリン腺膿瘍3例, 外陰膿瘍2例の計6例であった。本剤の投与方法は子宮内膜炎の1例を除き, 全て1回100mgの1日3回7日間投与, 子宮内膜炎の1例では1回100mg 1日3回3日間投与後1回200mgの1日3回投与に増量し, 15日間(計18日間)経口投与を行った。効果判定は本剤投与前後の臨床症状・所見の推移, 分離菌の消長, 自覚的副作用および臨床検査値異常をもとに行った。

臨床効果はTable 1の如くで, 6例全てに有効であった。症例1の子宮内膜炎の症例では, 臨床所見等を考慮し3日後から1回投与量を100mgから200mgに増量した。投与開始6日後に臨床効果, 細菌学的効果の判定を行ったが, 腹痛が完全には治まらなかったため1回投与量200mgで12日間継続投与を行った。投与前には発熱, 白血球増多, CRP強陽性を示し, 下腹痛, 圧痛, 内診痛が認められたが, これらの症状はすべて改善し有効と判定した。症例2, 3, 4のバルトリン腺膿瘍も発赤, 腫脹,

疼痛, 膿汁も消失し, 著しい改善が認められた。症例2, 3の白血球増多も改善された。症例5, 6の外陰膿瘍にも同様の効果が認められた。なお, バルトリン腺膿瘍および外陰膿瘍の症例についてはいずれも投与開始日に膿瘍穿刺を併用しており, 有効と判定した。また細菌学的効果については全6例より7株 (*Staphylococcus epidermidis*, Coagulase-negative staphylococci, *Streptococcus agalactiae*, *Escherichia coli*, *Prevotella bivia* 各1株および *Corynebacterium* sp. 2株) が検出され, 治療後は全て消失したが, *Corynebacterium* sp. が検出された外陰膿瘍の1例(症例5)では菌交代がみられ, 投与後に *S. epidermidis*, *S. agalactiae*, *Enterococcus faecalis* が認められた。安全性に関しては副作用および臨床検査値異常は認められなかった。

以上, 好気性のグラム陽性および陰性菌に強い抗菌力をもつ経口用ニューキノロン薬PZFXを婦人科感染症6例に臨床応用をこころみ良好な成績を得た。

本剤は経口投与後の組織内移行も良好で有効性が示唆される。産婦人科領域における疾患別臨床効果をみても, 子宮内感染に対しては98.3%の有効率が, 子宮付属器炎に対しては91.7%, バルトリン腺炎などの外性器感染では96%の有効率が報告されている³⁾。

また分離菌別細菌学的効果は単独菌感染でグラム陽性菌 (*Staphylococcus aureus*, *S. epidermidis*, *E. faecalis* など) に対して91.4%の菌消失率が, グラム陰性菌 (*E. coli*, *Klebsiella pneumoniae*, *P. aeruginosa* など) に対しては90.5%の菌消失率, 嫌気性菌に対しては91.8%の菌消失率が報じられており, 広範囲の抗菌スペクトルを有している。また複数菌感染に対しても88.5%の菌消失率をみている³⁾。今回の経験症例は6例と少ないが, 我々は全例に有効という成績を得ており, また副作用は従来のニューキノロン薬と比べ少ないことが報じられていることから³⁾, 本剤の臨床効果には大きな期待を寄せている。

Table 1. Clinical effect of pazufloxacin

Case no.	Age (yr.)	Diagnosis (underlying disease)	Organism (before→after)	Clinical response	Dose (mg × times × days)	Clinical effect	Side effects	Laboratory findings
1	22	endometritis (-)	<i>P. bivia</i> ↓ (-)	fever (°C) : 38.0 → 37.0 WBC (/mm ³) : 11700 → 8700 CRP : 14.1 → 1.0 L-abd. pain ↓, tenderness ↓	100 × 3 × 3 ↓ 200 × 3 × 3 ↓ 200 × 3 × 12	good	(-)	(-)
2	51	Bartholin's abscess (-)	<i>E. coli</i> ↓ (-)	WBC (/mm ³) : 11400 → 6300 redness ↓, swelling ↓ pain ↓, discharge of pus ↓ (with puncture)	100 × 3 × 7	good	(-)	(-)
3	27	Bartholin's abscess (-)	CNS <i>Corynebacterium</i> sp. ↓ (-)	WBC (/mm ³) : 11400 → 9300 redness ↓, swelling ↓ pain ↓, discharge of pus ↓ (with puncture)	100 × 3 × 7	good	(-)	(-)
4	40	Bartholin's abscess (-)	<i>S. epidermidis</i> ↓ (-)	swelling ↓, pain ↓ discharge of pus ↓ (with puncture)	100 × 3 × 7	good	(-)	(-)
5	30	vulvar abscess (-)	<i>Corynebacterium</i> sp. ↓ <i>E. faecalis</i> <i>S. agalactiae</i> <i>S. epidermidis</i>	swelling ↓, pain ↓ discharge of pus ↓ (with puncture)	100 × 3 × 7	good	(-)	(-)
6	14	vulvar abscess (-)	<i>S. agalactiae</i> ↓ (-)	redness ↓, swelling ↓ pain ↓, discharge of pus ↓ (with puncture)	100 × 3 × 7	good	(-)	(-)

L-abd. pain: lower abdominal pain CNS: coagulase-negative staphylococci

文 献

- 1) Muratani T, Inoue M and Mitsuhashi S: *In vitro* activity of T-3761, a new fluoroquinolone. *Antimicrob Agents Chemother* 36: 2293 ~ 2303, 1992
- 2) Fukuoka Y, Ikeda Y, Yamashiro Y, Takahata M,

- Todo Y and Narita H: *In vitro* and *in vivo* antibacterial activities of T-3761, a new quinolone derivative. *Antimicrob Agents Chemother* 37: 384 ~ 392, 1993
- 3) 熊澤浄一, 小林宏行: 第42回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム。T-3761, 福岡, 1994

The clinical effects of pazufloxacin in gynecological infections

Masaya Tateno and Hiroshi Funamoto

Department of Obstetrics and Gynecology, Toyama Prefectural Central Hospital
2-2-78 Nishinagae, Toyama 930, Japan

A newly developed new quinolone antimicrobial drug, pazufloxacin (PZFX), was clinically investigated, and the following results were obtained.

- 1) PZFX was administered to one patient with endometritis and five with external genital infection, and the drug was effective in all six patients.
- 2) Seven strains of bacteria were isolated from the six patients, and all the strains were eradicated bacteriologically by the treatment. One case of *Corynebacterium* sp. was replaced.
- 3) No abnormal changes in clinical laboratory findings or side effects were observed in any of the patients.